

バドミントンショットにおける運動連鎖研究

東京情報大学 総合情報学部
情報文化学科 石井ゼミ 4年
C07137 吉田 春彦

<研究目的>

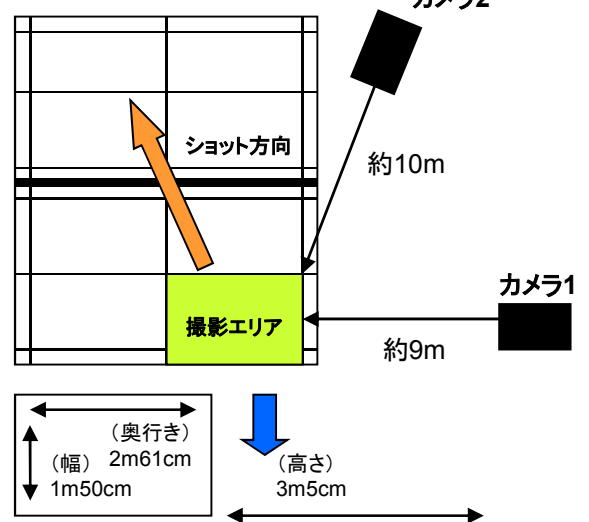
バドミントンにおける基本動作である3種のショットから、身体各部位がどのように連鎖していくか、その「運動連鎖」について分析した。

<実験方法>

右奥に打ったハイクリアーを、実戦と同じようにレシーバーがいることを想定して、なるべく同様のフォームで3種のショットを打ち分けさせた。

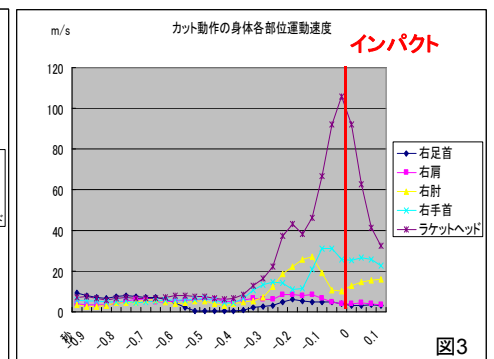
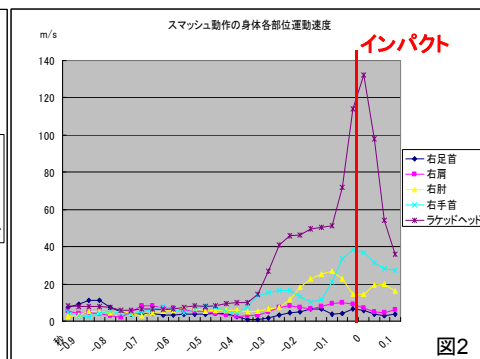
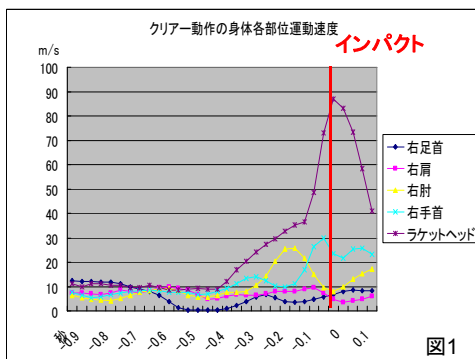
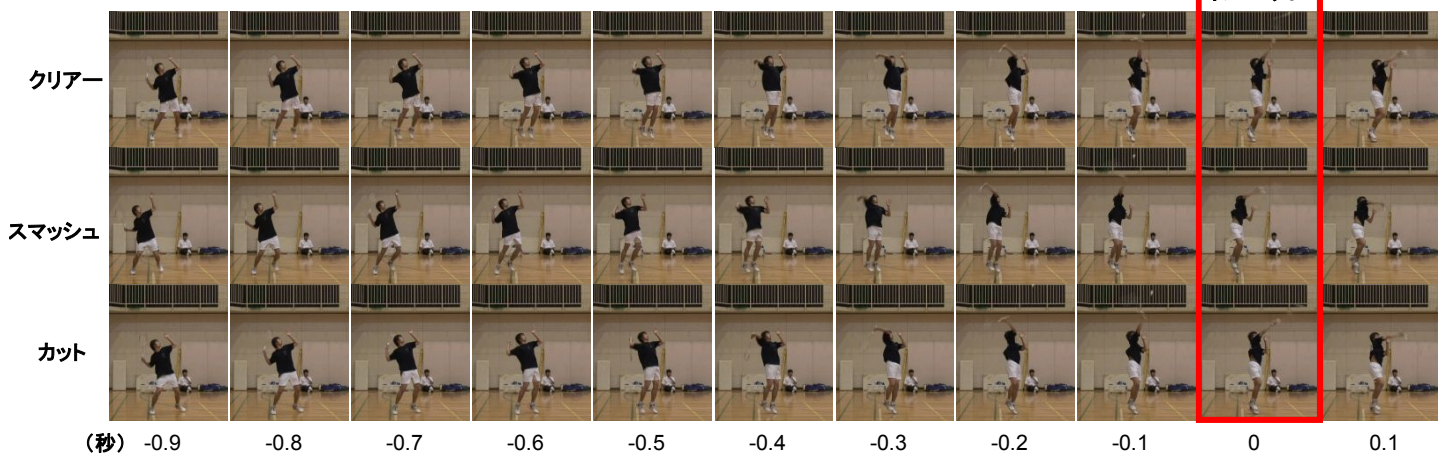
そのとき、各10本中最も良いと選手自身が判断した1本ずつを分析対象とした。

撮影方法



被験者データ	身長	体重	経験歴
	183cm	73kg	9年

<連続写真>



<考察>

1~3図では、どれも右足首から右肩、右肘、右手首、ラケットヘッドへと加速度的に速くなっていることから、似たような形での運動連鎖が起こっていると考えられる。しかし、図1は滞空時間を長くし、体勢を整えるための守備のショットであるため、また、図3もシャトルを切るようにインパクトすることで、強い回転で落ちていくショットであるため、どちらもショットの性質上、速度が図2ほど上がらなかったと思われる。